

理学療法士の始祖・柏倉松蔵

中 川 一 彦

Matsuzo Kashiwakura: the pioneer as a physical therapist in Japan

Kazuhiko Nakagawa

Abstract

This study tried to identify Matsuzo Kashiwakura as the pioneer of physical therapist in Japan through reviewing related documents.

Through this study, the followings became clear:

1. He was thinking of adding medical gymnastics to school gymnastics.
2. His purpose of using medical gymnastics was to cure illness and he had an eye to correction of posture in the field of orthopedic surgery.
3. The medical gymnastics were performed as the orthopedic post-operative treatment by the technicians who were under the direction of the physicians.
4. During his tenure of the office, there was a type of occupation, called “Jutsushu” (technician in English), and he was one of Jitsushu.
5. After the World War II, the orthopedic post-operative treatment was called the functional training at one time, but after the birth of the law of physical therapist and occupational therapist, it started to be called “physical therapy”.
6. Through these reviews, this study concludes that Matsuzo Kashiwakura is the pioneer of physical therapist in Japan.

Key Words: Matsuzo Kashiwakura, physical therapist, medical gymnastics,
orthopedic post-operative treatment, Functional training

1 はじめに

柏倉松蔵（1882—1964）に関する研究は、蒲原（1966）⁵⁾、宇留野（1967）²⁴⁾、伊藤（1975）³⁾、広田（1877）²⁾、砂原（1980）²²⁾、杉山（1985）²¹⁾、杉浦（1986）²⁰⁾、そして著者（1983¹⁵⁾、1984¹⁶⁾ などによりなされている。

その中でも、殊に、中川は、「柏倉松蔵の医療体操に対する考え方に関する研究」（1984）の中で、柏倉松蔵の著述「医療体操ニ就イテ」⁷⁾（1921）と講演記録「医療体操に就て」⁸⁾（1922）の存在を明らかにし、また、砂原は、「一人の療法士の軌跡」として、わが国におけるリハビリテーションの事始を紹介している。

そこで、本研究は、整形外科後療法と機能療法の関係に触れながら、柏倉松蔵がわが国における理学療法士の始祖であったことを示そうとするものである。

2 柏倉松蔵の履歴抜萃

柏倉松蔵は、1882年4月9日、山形県南村山郡上山町(現、上市市)に、後藤藤吉の次男として生まれた。

1902年4月、日本体育会体操学校高等本科(現、日本体育大学)へ入学し、1903年3月、同科卒業証書を受領、同年4月20日、東京市阪本小学校代用教員を命ぜられるとともに、同23日、無試験師範中学高等女学校体操教員免許状を受け、その後、私立立教中学校（1904年6月）、東京府立第一中学校（1904年11月）、神奈川県立第三中学校（1905年3月）、岡山県師範学校（1908年4月）教諭と転じていった。

神奈川時代の1906年、彼は、旧上山藩士族柏倉重方の養子となり、柏倉と改姓した。

岡山時代の1914年9月から1918年9月の4年間、岡山市内の私立盲啞学校教師葛山覃から、自宅で、按摩術(マッサージ術を含む)を学び、1918年11月、徳島県で、按摩術甲種試験に合格すると、同12月13日、岡山県師範学校を休職し、同12月20日、「医療体操研究のため東京帝国大学医学部整形外科田代教室に入り」と自らの履歴書に書いていた。^{24, P7)}

そして、1919年7月、東京帝国大学（現、東京大学）医学部雇となり、月給15円を給与され、附属病院勤務を命ぜられ、1923年7月まで、田代義徳教授の下で、医療体操及びマッサージ法を研究²⁴⁾、その間、1921年3月、『日本学校衛生』第9巻第3号に、先に紹介した「医療体操ニ就イテ」を著わし、同5月には、同教授を顧問兼監督に仰ぎ、わが国最初の肢体不自由児教育機関、柏学園を開設するとともに、同7月、第4回體育学理講演会において、求められ、「医療体操に就て」を講演した。

ところで、柏倉松蔵在職中の東京帝国大学整形外科学教室のマッサージなどを業とする者達には、「術手」と呼称される職階があり、医師の協力者として整形外科後療法を担当していたのである¹¹⁾。

尚、彼が、柏学園業務に専念するため、東京帝国大学医学部（囑託）を辞したのは、1926年のことであった。

その後、彼は、1956年には『肢体不自由児の治療と家庭及び学校』⁹⁾を出版、1959年

同園を閉じるまで、その生涯を同学園とともにあらしめたのであるが、1962年、病に倒れ、1964年11月8日、82歳の生涯をとじたのである。

3 柏倉松蔵と医療体操

柏倉松蔵がマッサージを学び、医療体操という言葉を開いた頃、わが国の教育、医療の分野には、どのような事情があったのであろうか。

まず、柏倉松蔵が学んだ日本体育会体操学校には、彼の在籍時、アメリカ、ボストン大学医科大学に学び、医師として帰国した川瀬元九郎（1871～1945）が教鞭をとっていた。彼は、スウェーデンのリング（Ling P. H., 1766～1839）の教えた医療体操をアメリカに伝えたリングの弟子ポッセ（Posse B. N., 1862～1895）の著書『Special Kinesiology of Educational Gymnastics』¹⁸⁾を持ち帰り、1903年、「體操論」¹⁰⁾と題する論文の中で、「ただに筋骨を運動せしめたりとて體操の目的を達す可きものにらず」と、当時の風潮に反省を求め、リングのスウェーデン体操を紹介し、「今體操を分ちて四種とす、即ち、第1療病的、第2兵式的、第3美的、第4教育的是れなり」として、療病的な体操のあることを紹介していたのである。

ちなみに、このポッセは、ヘルマン（Hermann E.）の論文「Physical Education and Physical Therapy」（1937）によれば¹⁾、理学療法に貢献したスウェーデン最初の指導として、また、アメリカの理学療法の発展に貢献した人物として紹介されている。

ところで、わが国へ治療体操という言葉を最初にもたらしたのは、1878年、わが国に適した体育法の選定と体操科教師養成の目的で、文部省直轄として設置された体操伝習所（現、筑波大学体育専門学群）に招聘されたアメリカ人、リーランド（Leland G. E., 1850～1924）によるものであり、彼は、その講述記録『體育論』¹⁹⁾の中に、「近世に於いて體操を主張し且其教師となりたるものはリング氏ならん……（中略）……之を称して治療體操といふ」と紹介したのである。

その後、先に紹介した川瀬元九郎の「療病的体操」（1903）、そして、彼が教鞭をとっていた日本体育会体操学校内部に出来た「醫療體操部」（1907）、わが国で初めて「特殊の体育」の必要性を説いた著書『学校及家庭における醫療體操の理論及實際』（前田末喜、1917）など¹⁶⁾があったのである。

一方、医学界では、柏倉松蔵の師であり、初代の東京大学医学部整形外科学教室の教授となった田代義徳（1864～1938）は、1900年、文部省の命を受け、外科的矯正術研究のため、ドイツ、オーストリアへ留学し、整形外科学を学び、1904年、体操の整形術⁶⁾、整形外科的マッサージ、整形外科的物理療法（理学療法）⁴⁾、そしてリングの医療体操を器具を用いて出来るようにしたザンダー（Zander G., 1835～1920）の装置（図1）などを持ち帰っていた^{15,17)}。また、彼は、1918年「鏡前體操」と題する論文²³⁾の中で、「疾病ノ豫防及ビ治癒ノタメ又畸形ヲ矯正スルタメニ必要ナルモノ」として治療体操を紹介していたのである。

マッサージについていえば、大衆化していたわが国の遠心的な按摩法は、その術が盲人

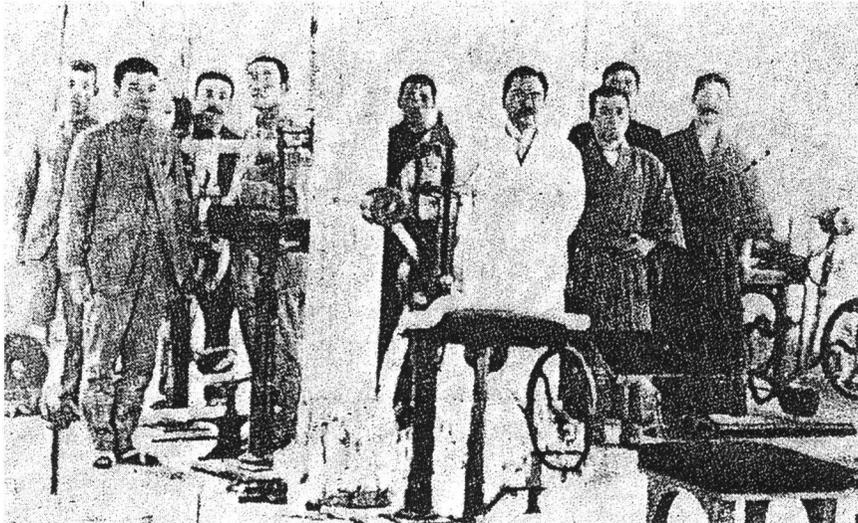


図1 田代義徳教授（白衣姿）とサンダーの装置
（整形外科、第26巻、第10号より）

婦女子の手に移り、勢い賤伎視され、明治時代に入ると、1885年免許及取締規則が發布され、相前後して、西洋のマッサージも輸入され¹⁶⁾、1893年には、長瀬時衡によって『西洋按摩小解』が紹介されるのである。そして、この按摩術は、彼が、陸軍々医監長であることもあいまって、軍関係者を中心に広まり、田代義徳のもたらしたマッサージとともに、理学的療法のひとつとして研究紹介され¹³⁾、今に至ることとなったのである。

この様に、柏倉松蔵がマッサージを学び始めた頃（1914）、彼が、運動場の隅にしょんぼりしている子供に寄せた同情心¹⁵⁾、そして、「考えてみれば、自分が学校で教わってきたまを、何の工夫もなくやってきただけです。これではいけない」^{9, P8)}という彼の反省が、彼と医療体操、そしてマッサージを結び付けたものと考えられたのである。

4 柏倉松蔵の医療体操

柏倉松蔵は柏学園のカリキュラムにおいて、国語、算術などと並び体操（治療体操、保健体操）、そしてマッサージ（治病）を取り入れていた¹⁶⁾。

彼は、正に、この学園開設（1921年5月1日）の前後に、「醫療體操ニ就イテ」を著し（同年3月24日）、「醫療體操に就て」を講演（同年7月19日、刊行は1922年7月30日）したのである。

この両者は、ほぼ同様の内容であるが、その中で柏倉松蔵は、体操を学校体操、家庭体操、国民体操、そして医療体操に分け、医療体操を次の様に定義しているのである。

すなわち、その目的は、疾病の治療にあり、治病体操、療養体操、治療体操、医学的体操などと呼ばれることもあるとしているのである。

そして、これは、運動していれば自然に病気が治っていくようなものではなく、医学者が、多くの研究と実験をなし、その結果できたもので、医師の診断に対する治療法として

の体操だとしているのである。

それ故、これは、「指一本、筋肉一つの運動迄も施すことがあり、尚其上にマッサージを行い又は虚勢、実勢、抵抗運動法等」⁸⁾と分け施されるものであると紹介しているのである。

また、この医療体操は、全ての病に有効なものではなく、その多くは、整形外科に属する疾病治療に用いられ、側弯症、小児麻痺などの末梢神経損傷、外傷性運動障害、中枢神経損傷、そして跛行などが対象となるが、当初、彼が主力を注いできたものは、姿勢矯正、すなわち、側弯症の治療体操であるとしていた。

そして、この医療体操は、多様な子供達一人ひとりの発達を願う個別教育計画の必要性、身体的な弱点部分を補うための医療体操と学校生徒の健康を保護増進し、全身の発育を均斉に発達させるという学校体操の目的達成のために、学校体操に加味されるべきものであると説いていた。

更に、この医療体操の指導者については、「医師ノヤルベキモノデアル……（中略）……其労力ト時間ノ関係、其他種々ナル関係デー々医者ガヤッテ居ルコトハ出来ナイ、ソコデ所謂助手即チ技術者ヲ要スルコトニナル、比技術者ハ医者ノ命ニ従ッテ体操ヲ課ス」⁷⁾と述べ、医師に代って、その指示の下に、技術者が担当する必要性を説いていたのである。

5 整形外科後療法と機能療法

柏倉松蔵が体験していた医療体操は、「医療体操に就て」の中で「治療体操、療養体操の如く何と云っても宜い……〈中略〉……整形科に関する疾病治療であります。」⁸⁾と述べているように、現今における整形外科領域の治療法の一部である。

この整形外科的治療法には、体操的整形術、整形外科的マッサージ、整形外科的物理療法（理学療法）が含まれ、整形外科後療法として、医師の協力者、つまり、医師の指示の下に、術手と呼ばれる技術者によって担当されていたものである。

そして、この整形外科後療法は、わが国においては、第2次世界大戦後、リハビリテーション思想の導入・展開とともに、それまで、大学医学部において理学療法あるいは物理療法と標榜されていたものであるが、新しい意味での理学的療法として、一次、機能療法と呼称されることのあったものである。

ちなみに、機能療法は、physical therapyまたは physiotherapy の訳語として理解され、その適用方法として、体操（exercise）、マッサージと徒手操作、温熱、電流刺激、スポーツなどが挙げられていた。

そして、この、わが国でいう機能療法を担う技術者を、外国では physical therapist あるいは physiotherapist と呼称していたのである¹¹⁾。

ところで、第二次世界大戦後、新しい意味での理学的療法は、戦前のマッサージを含む温熱、電流、光線、放射線、水浴、振動などのいわゆる物理学的な力を身体に加えて医療効果を得ようとした療法から、自動運動や抵抗運動を中軸とした各種の体操、即ち運動療法に重点が置かれることになり、「理学的療法のうちの主として後者、即ち運動療法的な面

に重点を置いた言葉」^{11, P39)} という意味で、機能療法が用いられるようになるのである。

このことについて小池は、「理学療法が最も普及した名称ではあるが、この用語がともすると前時代的な意味での physical therapy と誤り解せられるので、それを避けて機能療法と仮に命名したものと解することとする。」^{11, P39)} としていたのである。

そして、この機能療法は、高木によれば、「身体的（医学的）リハビリテーションを実施する上において中心的な役割をするのが、機能療法と職能療法である。」^{11, P83)} と断定され、「医師の処方によって、夫々の専門技術者、即ち理学療法士 (P.T.) と職能療法士 (O.T.) が実施するものである。」^{11, P83)} と位置づけられていたのである。

その後、1962年、厚生白書は、「機能療法士（注、理学療法士のこと）、職能療法士（注、作業療法士のこと）」と書き、翌年（1963）の医療制度調査会が、医療制度全般についての改善の基本方策に関する答申の中で、「機能療法士、物理療法士または理学療法士 (Physical Therapist)、職能訓練士または職能療法士 (Occupational Therapist)」^{12, P13)} の早急な制度化を求めたのに対し、厚生省は、同年、P.T., O.T. 身分制度調査会を設置することとなり、同調査会は、「フィジカル・セラピーの統一名称として理学療法を採択」^{12, P43)} する旨を決定し、ここに、現今の理学療法、理学療法士という言葉が誕生することとなったのである。

つまり、柏倉松蔵が体験していた医療体操は、これまで見てきたように、整形外科後療法のひとつであり、同時に、これはまた、理学療法あるいは物理療法と呼ばれていたものひとつでもあり機能療法と一時呼称されることのあった現今の理学療法の幹となる運動治療法のひとつであり、理学療法士及び作業療法士法第二条でいうところの「治療体操その他の運動」に該当するものと考えることが出来るのである。

6 理学療法士の誕生

前述してきたように、中でも、4、柏倉松蔵の医療体操、そして、5、整形外科後療法と機能療法のところで見てきたように、柏倉松蔵の示した医療体操は、医師の診断に対する治療法としての体操であり、整形外科後療法として、医師の協力者、つまり、医師の指示の下に、術手と呼ばれる技術者によって担われていたものである。

この整形外科後療法は、第二次世界大戦、機能療法と呼称されることがあったが、その根幹となるものは、他動運動、介助自動運動、自動運動、そして抵抗運動を軸とする運動による治療法、つまり運動療法であり、理学療法士及び作業療法士法で示すところの「治療体操その他の運動」だったのである。

そして、この機能療法を担う技術者は「機能療法師 (physical therapist, 又は physiotherapist 略称 P.T.)」^{11, P9)} であるとされていたのであったが、厚生省（現・厚生労働省）は、理学療法士及び作業療法士法制定に際し、1963年、フィジカル・セラピー (physical therapy) を理学療法と統一、併せて、機能療法士の呼称を理学療法士と改めたのであった¹²⁾。

この様な流れに鑑み、柏原松蔵は医師の指示の下に術手と呼ばれる技術者であったこと、

その実施していた医療体操は、現今の理学療法の幹となる運動による治療法であり、眞に、わが国における理学療法士の始祖といって過言ではないと考えられたのである。

まとめ

本研究は、文献研究を介し、整形外科後療法と機能療法の関係に触れながら、柏倉松蔵が、わが国における理学療法士の始祖であることを探ったものである。

その結果、以下の事柄を知ることが出来た。

- ① 柏倉松蔵は、医療体操を学校体操に加味すべきものと考えていた。
- ② 柏倉松蔵の医療体操の目的は、疾病治療にあり、医師の診断に対する整形外科に関する治療法のひとつで、彼が主力を注いでいたものは、姿勢矯正のための治療体操であった。
- ③ この医療体操は、整形外科後療法として、医師の協力者、即ち、医師の指示の下に、技術者によって担当されていた。
- ④ 柏倉松蔵在職中の東京帝国大学整形外科学教室で、医師の協力者として整形外科後療法を担当していたマッサージなどを業とする者には、術手といわれる職階があり、彼はその一人であった。
- ⑤ 整形外科後療法は、第二次世界大戦後、わが国では、一時、機能療法といわれていたが、理学療法士及び作業療法士法誕生とともに、新しい意味での理学療法として位置づき、今でいう、理学療法士も誕生した。
- ⑥ 以上のことから、柏倉松蔵は、今でいう、理学療法士の始祖であったと考えられた。

参考（引用）文献

- 1 Hermann E.: Physical Education and Physical Therapy, JOHPER, Vol.8, No. 3, 349-351&359, 1937
- 2 広田雅子：身障者問題への歴史的一考察、立教大学文学部卒業論文、私家版、1977
- 3 伊藤孝敏：わが国における草創期肢体不自由児事業に関する一考察、東京教育大学教育学部特殊教育学科卒業論文、私家版、1975
- 4 蒲原宏：日本整形外科史における田代義徳先生、整形外科、Vol.26, No.10, 901-906, 1975
- 5 蒲原宏：柏学園と創立者柏倉松蔵・とく夫婦について、日本医事新報 No.2185, 37-38, No. 2186, 51-54, No.2187, 57-58, 1966
- 6 金子魁一：整形外科マッサージ療法、南江堂、1964
- 7 柏倉松蔵：醫療體操ニ就イテ、日本学校衛生、第9巻、第3号、50—63、1921
- 8 柏倉松蔵：醫療體操に就て、体育学理講演集、第4輯、1922
- 9 柏倉松蔵：肢体不自由児の治療と家庭及び学校、柏学園、1956
- 10 川瀬元九郎：體操論、體育、第114号、6—15、1903
- 11 小池文英ほか：国内における機能療法及び職能療法、整肢療護園、1962
- 12 厚生省医務局医務課：理学療法士及び作業療法士法の解説、中央法規、1965
- 13 長瀬時衡：西洋按摩小解、仁壽館、1893
- 14 中川一彦：障害児の教育における体育の役割、学校体育、第34巻、第12号、18—23、1981
- 15 中川一彦：柏倉松蔵と日本体育会体操学校の教育に関する研究、筑波大学体育科学系紀要、第6巻、21—27、1983
- 16 中川一彦：柏倉松蔵の医療体操に対する考え方に関する研究、筑波大学体育科学系紀要、第7巻、201—207、1984
- 17 中川一彦：わが国のいわゆる特殊体育（障害者体育）に関する一考察、筑波大学体育科学系紀要、第18巻、53—61、1995
- 18 Posse B. N.: Special Kinesiology of Educational Gymnastics, Lothrop, Lee & Shepard Co., 1894
- 19 李蘭士：體育論、筑波大学中央図書館蔵、1880頃
- 20 杉浦守邦：日本最初の肢体不自由学校柏学園と柏倉松蔵、山形県特殊教育研究会、1985
- 21 杉山勲：柏倉松蔵に関する研究、私家版、1985
- 22 砂原茂一：一人の療法士の軌跡、理学療法と作業療法、Vol.14, No.3, 202—206、1980
- 23 田代義徳：鏡前體操、実験医報、第40号、261—265、1918
- 24 宇留野勝彌：肢体不自由児の父柏倉松蔵さん、私家版、1967